



バリアフリー推進レポート



第8回山口県バリアフリー等地域連絡会議を開催しました！

バリアフリー等地域連絡会議は、平成22年度から中国地方各地でのバリアフリー化を推進する目的で、各県において隔年で開催しております。

この度、第8回山口県バリアフリー等地域連絡会議を下記のとおり開催しました。

【会議概要】

日時： 令和7年10月29日（水） 14:00～16:00

場所： 対面・WEB併用で実施

議事：（1）開会挨拶（山口運輸支局長）

（2）座長選出・挨拶

（3）運営要綱の一部改正について

（4）第7回移動等円滑化評価会議

中国分科会の報告について

（5）第4次バリアフリー整備目標最終とりまとめについて

（6）構成員のバリアフリーに関する取組状況について

（7）意見交換

（8）閉会挨拶（山口県土木建築部技術管理課長）

【構成員】

○学識経験者

山口大学大学院 創成科学研究科 工学部
社会建設工学科 教授 榊原 弘之

○高齢者・障害者団体

一般社団法人 山口県身体障害者団体連合会
一般社団法人 山口県視覚障害者団体連合会
一般社団法人 山口県ろうあ連盟
一般財団法人 山口県手をつなぐ育成会
特定非営利活動法人 山口県自閉症協会
一般財団法人 山口県老人クラブ連合会

○施設設置管理者

西日本旅客鉄道株式会社 中国統括本部
錦川鉄道株式会社
公益社団法人 山口県バス協会
一般社団法人 山口県タクシー協会
山口県旅客船協会
山口県旅館ホテル生活衛生同業組合
山口宇部空港ビル株式会社
岩国空港ビル株式会社

○行政機関

山口県
山口市
中国地方整備局
中国運輸局



座長 山口大学大学院 榊原教授



山口運輸支局長 開会挨拶

【構成員のバリアフリー取組状況】

《西日本旅客鉄道株式会社 中国統括本部》

- 山陽本線厚狹駅では、新幹線改札の整備に加え、ホームのエレベーターの設置が全て完了したことで駅のバリアフリー化が完了した。9月30日から供用開始している。

《錦川鉄道株式会社》

- J Rの今年4月の改正に合わせ、精神障害者割引を本人だけではなく介護者もともに5割引、2種の方は本人のみ5割引の対応を取っている。

《公益社団法人 山口県バス協会》

- 県内バス事業者に対し、車両の代替で可能な限りノンステップバスの導入を勧めている。貸切バスについても、バリアフリー車両導入の助成金を紹介している。

《山口宇部空港ビル株式会社》

- 今年6月、中央大学ユニバーサルデザインプロジェクトチームによるユニバーサルデザイン診断を受診。空港側としてはユニバーサルデザインに対応していたつもりだったものの、誘導ブロックはエレベーターではなくそのボタンに向かって敷設されていなければならない、多機能トイレの機能を増やしすぎて逆に不便になってしまっているといった御指摘をいただいた。大変参考になったので、今後の改修に生かしたい。

《山口県》

- バリアフリー仕様の県営住宅の新築や、以前建設した県営住宅に対しバリアフリー化を実施している。
- ノンステップバス導入の補助制度を設けている。

《山口市》

- バリアフリー基本構想に基づき、道路のバリアフリー化事業を進めている。
- 山口市ユニバーサルデザイン推進検討会を開催し、障害者団体等の御意見を施設の整備に反映した。

【意見交換(抜粋)】

《みどりの窓口廃止について》

- 視覚障害者が一人で出かけた場合、サポートしてくれる人がいないため大変な思いをしている。
- 廃止前はメモやスマホを窓口で見せることで解決することも多々あったが、それができなくなってしまった。
- みどりの券売機プラスではオペレーターと筆談できるそうだが、文字の理解が難しいろうあ者もいるため、可能な限り手話でのコミュニケーションを希望する。
- みどりの券売機での手話通訳が難しいようであれば、遠隔地手話通訳はいかがか。JR西日本での導入を検討していただきたい。

《回答》

- 労働人口は減少しているものの鉄道は維持しなければならないという状況から、窓口の廃止はやむを得ず行っているため、御理解をいただきたい。
- 遠隔地手話通訳については、後日お話を聞いた上で検討させていただく。

《電車内等での情報保障について》

- 電車が緊急停止した際、車内アナウンスのみで情報が伝えられた場合、聴覚障害者にとっては何が起きているのか分からない。車掌が来て対応いただいたときは降車できたが、そうでなかったときは電車内で長時間待つことになってしまったため、情報保障には配慮していただきたい。
- 構内アナウンスや車掌のアナウンスが聞き取りづらい。電車内での通話はルール違反と理解しているために支援者に連絡できなかったという事例も多い。

《回答》

- 障害者の方は情報が取りにくいという課題認識を持っている。障害者に限らず、誰にとっても分かりやすい情報提供の仕方を勉強し、順次整備を進めているところ。
- ワンマン列車の場合、異常時は運転手一人で対応する必要がある。訓練も行っているが、運転手の行動や技量の向上で対応せざるを得ない部分もある。

《県内の交通について》

- 交通機関別にICカードを変えることなく、全国的に1枚のカードで移動できると大きなメリットになると思う。
- 高齢者にとっては、地域における活動に参加したり継続しようとしたりしても、交通の便が悪いと参加できなくなってしまう。将来的には社会参加の機会や生きがいの喪失により、心身の健康面への影響も想定されるため、今後も公共交通機関に頼りたい。

《回答》

- 広島でもPASPYの廃止に伴い事業者によってICカードや割引が変わるため統一してほしいという声が上がっている。山口県内ではICOCAとnimocaがあり、カードリーダーが変わればその都度障害者手帳を提示する必要があるという状況。難しい部分もあるが、当事者の声として本省に上げさせていただく。

【座長まとめ(概要)】

- 当事者からの御意見として、今回もみどりの窓口廃止や緊急停車時の情報提供についての話が多かった。JRも大きな組織で、本社で方針を決めてから動く部分もあり難しいところがあることも承知しているが、これだけ意見が出ているという現状。
- 個別の窓口であるみどりの窓口から、オンライン対応であるみどりの券売機という形に変わり、ある意味細かいニーズに応えられる可能性は広がっているのではないか。
- 前回同様に、今回も未だ過渡期なのかという印象だが、そろそろ折り合いを付け解決に向かっていかねばならない。

